

製品名: CRMP2 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86917**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,FC,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:20000,IHC 1:200-1:1000,ICC/IF 1:50-1:100,FC 1:20-1:100,IP 1:10-1:100
分子量	Calculated MW:62 kDa; Observed MW:62 kDa

抗原情報

遺伝子名	CRMP2
別名	DRP2; N2A3; CRMP2; DRP-2; ULIP2; CRMP-2; DHPRP2; ULIP-2
遺伝子 ID	1808
SwissProt ID	Q16555
免疫原	ヒト CRMP2 の合成ペプチド

背景

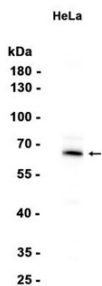
この遺伝子は、コラプシン応答メディエータータンパク質ファミリーのメンバーをコードしています。コラプシン応答メディエー

タータンパク質はホモおよびヘテロ四量体を形成し、ニューロンの誘導、成長、および極性を促進します。コードされているタンパク質は微小管の組み立てを促進し、Sema3A を介した成長円錐の崩壊に必須であり、カルシウムチャネルとの相互作用を介してシナプスシグナル伝達にも関与しています。この遺伝子は複数の神経疾患に関与していることが示唆されており、コードされているタンパク質の過リン酸化はアルツハイマー病の発症に重要な役割を果たす可能性があります。この遺伝子には、複数のアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが観察されています。[RefSeq 提供、2011 年 9 月]

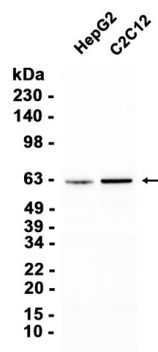
研究分野

-

画像データ



CRMP2 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用した HeLa 細胞抽出物のウェスタンブロット分析。



AMRe86917 を 1:5000 で使用して HepG2、C2C12 細胞抽出物をウェスタンブロット分析しました。